

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰もがすぐ口ずさめる理念を掲げ、その理念の下に一人ひとりの利用者が安心して暮らせるよう管理者・職員が柔軟な支援に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスとして、何が大切かを考え、地域や利用者のニーズを考慮して、現状に合った理念を再確認してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念どおり笑顔で家庭的な雰囲気づくりを、毎日の支援の中に生かしている。言葉かけや介助にも共有した取り組みが多く見受けられた。	○	利用者が家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人らしく暮らし続けられるよう支援するには、地域住民との交流の場を重ねて行くことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内での行事や家族との交流には、心の温まるものが随所に見受けられる。行事には一部の人は参加している。	○	ホーム内の行事に来てもらうだけでなく、地域住民の一人としてホームから町内会の行事や地区の行事に参加すると、顔見知りになり、何でも相談できたり、ホームのことを知ってもらえる機会も、今以上に多くなるのではないかな。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の後、運営者、管理者、全職員で会議を行い質の向上に努めている。評価の意義を理解し、全員で共有している。		

宮崎県野尻町 グループホーム幸ちゃんの家2号館

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容も一人ひとりの意見を聞き質問や要望がしっかり受けてあり、記録され、双方向的な会議となっていて、それがサービスに生かされている。		運営推進会議が現在3か月ごとに行われているので、2か月に1回の開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地元以外の利用者の地区の支援センターや役場との連絡も取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、利用者の健康状態や日々の様子、行事に参加した時の写真等を載せた「お便り」を家族に届け、大変喜ばれている。利用者家族への愛情が見受けられる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から「少し外に出る機会を多くしてほしい」等と相談があると、買い物に行く機会を設けたり散歩を増したり、相談を受け入れ、対応する努力が見受けられる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があると、月1回の「お便り」で知らせたり、利用者に説明をし話しかけを多くしたり、夜間の見守りに気を配るなど細やかな配慮が多く見受けられる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修や学習会、同業者の研修会その他法人内外の研修にも積極的に参加している。上司からの日常的な指導もあり育成のための取り組みが行われている。週1回の研修会も続けられている。		研修報告書は作成してあるが出席した本人の感想のみになっているので、資料も添付した復命書としてほしい。その際、伝達、確認のため職員の捺印が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや意見交換会の機会もあり質の向上の取り組みが行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭の雰囲気に近づけるため、日常に本人が使用していたり、気に入っていた物を持参してもらったり、利用者が安心して生活できるよう、家族との話し合いを持ちながら努力や、工夫が見受けられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	話しかける言葉にも利用者を敬う心が感じられるし、職員が配膳や、片づけ等の日常生活の中で、心を寄せ合いながら一緒に過ごす姿勢に、利用者の明るい笑顔と、ゆったりとした雰囲気を作っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調の優れない利用者のことを考慮して、みんなが集まる畳の広間に布団を敷き、利用者や家族と接する機会を多くする等、思いやりのある温かな支援が職員間で自然に行われていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	見を	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め、介護計画作成時は担当者がまとめ役になり、職員全員で意見を出し合い看護師も加わってのカンファレンス、モニタリングを行っている。		東館、西館で介護計画の作成方法が違っていたのでアセスメント方式を統一すれば、本人や家族の意見が今以上に引き出せて、ポジティブな介護計画作成につながり、東館、西館の共有した意見やアイディアも出やすくなるのではないかと。今後に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は作成してあるが、3か月ごとの見直しがされてなく、現状とかけ離れている介護計画書も見受けられた。	○	状態が変化した場合には家族を交えての、実情に応じたケアにつながるように、介護計画の見直しをしてほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前、旅行の好きだった人には家族に相談して本人の好きな景色の写真を送ってもらい部屋に飾ったり、花の好きな人には部屋に飾るだけでなくプランターに植えたりしている。日常の支援に加え、希望につながるような一歩進んだ支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医との受診支援は十分できていて、相談や往診も含め事業所との医療連携ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期支援までが理想と言う職員は、その理想に近づくための支援を真剣に考えている。利用者と家族との話し合いの場も作り、職員の話し合いも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が一人ひとりに話し掛ける時にも、敬う言葉をたくさん使った会話が見られ、利用者も笑顔でそれに応えられ、家庭的で和やかな雰囲気の中で温かさが伝わってくる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者の性格や生活歴、要望を十分知っていて話し掛ける言葉にも気を配っている。良く観察していて希望に沿ったさりげない支援の中で、一日がゆったりと過ぎていた。		

宮崎県野尻町 グループホーム幸ちゃんの家2号館

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで同じものを1人だけ食べている。食事介助では、すぐに介助を始めるのではなく、自分で食べる喜びを少しでも味わってもらえるように食べにくい量になった時や手が疲れて来たら介助をするなど、利用者への心遣いが見受けられた。		利用者と職員が、同じ食事を囲みながら、楽しく食べることが大切なので、同じ物を一緒に食べる取り組みをしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望や体調、状況をふまえて週3回の入浴を支援している。入浴前の体調チェックも行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のリハビリを取り入れ、その中に歌や踊りもあり利用者の笑顔が始終はじけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲の散歩や庭を訪れるパン屋さん、同経営のグループホームの芋掘りや戸外に食事に行ったりと一生懸命支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けないようにしてあり、利用者の様子も察知できるよう常に全職員での声かけが行われていた。		

宮崎県野尻町 グループホーム幸ちゃんの家2号館

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	マニュアルができていて、連絡順序も受話器にもメモしてあり警察、消防との連携もできている。事業所内で月1回の訓練も行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週1回の栄養士の来訪により、職員も学習し、一人ひとりの状態に合わせ、刻み、小刻み、ペースト状に支援している。水分補給にも気を配り、何度もお茶を促したり、テーブルを回って追加していた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ろうか、居間、玄関にもクリスマス飾りがしてあった。家族が持って来られた手作りのツリーが、その利用者の部屋に飾ってあり、季節の行事が取り入れられ利用者も喜んでいた。そうじも隅々まで行き届いていた。		トイレ内に便器が2つ設置されていて、薄いカーテンのみで仕切られていたので、入口に使用中等の表示をして二人同時にならないよう気配りがほしい。トイレに小窓があったので、それも検討を望みたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が家庭で使用していたたんすや小物入れ、布団など使い慣れた物が利用者本人の部屋に見受けられた。好みの物も飾ってあり、部屋に落ち着きがあり家庭の雰囲気が見受けられた。		個々の部屋の入口の引き戸に小窓がついていて、見守りの心配りがしてあったが、のぞくこともできるので場合によっては絵を貼ったりするのも良いのではないかな。

※  は、重点項目。